
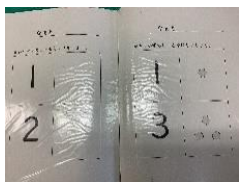


算数科 数量の理解が難しい児童の「3までの数」の学習事例

事例	数量の理解が難しい児童の「3までの数」の学習	
児童生徒	学部等	小学部3学年
について	障がい名等	知的障がい、ダウン症候群
児童の主な実態	<ul style="list-style-type: none"> ・人との関わりを好み、友達や教師に積極的に関わろうとする。 ・発音が不明瞭なため言葉が聞き取りにくい。 ・形や色の分類はできるが、色の名前は一致していないことがある。 ・10までの数唱では4や8が抜けることがある。 	
行動の見方	<ul style="list-style-type: none"> ・生活場面で数や数量、数字に触れる経験が乏しい。 ・考え方 ・発音が不明瞭なため分かっていても伝わらなかったり、相手からのフィードバックが得られなかったりする。 ・友達が好きなため数よりも感情（〇〇くんにはたくさんあげたい。）で物を操作してしまうことがある。 	
支援の実際や変容など	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活場面での「5秒待つね。」や教師との関わりで「1・2・3、ちょちょよ。」などの遊びながら数に触れられる機会を設定する。 ・iPadを使って自分で正解かどうか分かる学習をする。 ・実際に半具体物を使って操作をしながら、数量を学習する。 <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>(児童の変容)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・算数の学習で使う教材を使えば「3個ちょうだい。」や「いくつかな。」という問いに正しく正答することができるようになった。 ・日常生活場面でも「もう1回やって。」と自分から指で1を表したり、教師の「2回ずつお願いね。」という言葉かけを受けて1つの机に2回ずつ消毒のスプレーをかけたりすることができるようになった。 <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>(今後の課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初めて見る教材やプリントだと正答率が下がるので、児童が使える教材をいろいろな場面で使い「3までの数」の確実な習得を目指していく。 ・教師から促された時だけでなく、自分から数や数量、数字を使って生活を送ることができるようにこれからも数や数量に触れる機会を意図的に設定していく。 	